

音楽アーティスト科 声優アーティストコース 受講科目一覧 1年次

文化・教養専門課程（文化・教養分野）

1 単位時間 4 5 分

授業科目		年間授業 時間数	週授業 時間数	単位数
実習	分野別実習Ⅰ（前期）	34	2	1
実習	分野別実習Ⅰ（後期）	34	2	1
講義	業界知識Ⅰ	72	2	4
演習	共同演習Ⅰ	68	2	4
実習	演技実習Ⅰ	68	2	2
講義	音声技法Ⅰ	68	2	4
演習	表現パフォーマンスⅠ	68	2	4
講義	アクター基礎Ⅰ	68	2	4
講義	表現Ⅰ	68	2	4
実習	歌唱/演奏基礎技術Ⅰ	68	2	2
実習	歌唱/演奏応用技術Ⅰ	68	2	2
講義	アイソレーションⅠ	68	2	4
演習	アンサンブル基礎Ⅰ	68	2	4
演習	アンサンブル応用Ⅰ	68	2	4
合計		888	26	44

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	オンデマンドⅠ		授業形態 / 必選	講義	必修		
	学則別表上表記	業界知識Ⅰ	年次	1年次			
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	36回(72単位時間)	年間単位数	4単位	
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 全コース						
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目					該当 ☐	非該当 ☒
担当講師 実務経歴							
授業概要							
音楽業界に関わる様々な業種について理解を深めることで、音楽業界の仕組みを学ぶ。							
到達目標							
前期では音楽業界の中心となるプロダクション、レコード会社、音楽出版社の役割とコンサート業界、レコーディング業界の仕事内容について学びます。 後期では音楽ビジネスに関わる権利、著作権、印税の仕組み、著作物について学びます。							

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	音楽業界の仕組み① 音楽業界のお仕事～プロダクションの働きについて理解する 音楽業界の仕組み② レコード会社の働きについて理解する 音楽業界の仕組み③ 音楽出版社とJASRACの働きについて理解する
【前期】 4～7回目	イベント・コンサート業界の仕組み イベント・コンサートに関わる各セクションの仕事について理解する コンサート制作の仕事 イベントやコンサート制作会社の働きについて理解する コンサートスタッフの仕事 舞台監督や各業種の仕事内容について理解を深める コンサート関連の技術系の仕事の流れ PA・照明・ローディーの仕事の流れについて理解を深める
【前期】 8～10回目	業界用語と舞台用語 業界や現場で使われる用語を理解する 音源制作の仕事① CDが出来るまでの流れと楽曲発注について理解する 音源制作の仕事② プリプロ～レコーディングの流れを理解する
【前期】 11～13回目	音源制作の仕事③ マスタリングについて理解を深める 音源制作の仕事④ ジャケット制作について理解する 音楽ビジネスの現状 変化する音楽産業とミュージシャンの収入について
【前期】 14～18回目	ここまでのまとめとテスト 前期テスト テストの解説
【後期】 19～21回目	音楽ビジネスに関わる権利 ① ミュージシャンに関わる権利について理解する 音楽ビジネスに関わる権利 ② 著作権について理解する 音楽ビジネスに関わる権利 ③ 実演家とレコード製作者の両方に認められている権利について理解する
【後期】 22～25回目	音楽ビジネスに関わる権利 ④ 原盤について理解する 著作権管理事業の現状 著作権管理事業について理解する JASRAC の問題点 JASRAC の功罪などについて理解する 著作権に関わる印税の仕組み① CD販売の場合の著作権使用料による印税収入などについて理解する
【後期】 26～28回目	著作権に関わる印税の仕組み ② 動画投稿(共有)における著作権使用料などについて理解する 著作権に関わる印税の仕組み ③ 放送使用における著作権使用料について理解する 著作権隣接権に関わる印税の仕組み アーティスト印税の計算などについて理解する
【後期】 29～31回目	著作権にまつわる問題点 インターネットの普及でばら撒かれる海賊版の氾濫などについて理解する 著作物を利用する方法① ビジネス契約と著作権～「所有権」と「著作権」について理解する 著作物を利用する方法② 著作物の自由利用について理解する
【後期】 32～36回目	ここまでのまとめとテスト 後期テスト テストの解説
評価方法	前期試験、後期試験ともに筆記試験を実施し、S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価を行う。
学生へのメッセージ	仕事内容の伝わりにくい業界ですので、これをキッカケに興味を広げ、自身でも積極的に調べるようにしていきましょう。
備考	ホームルームも兼ねるため、日常の連絡業務や学校行事のプリント配布、アンケート調査、就職ゼミなどが実施される週もある。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	課題台本ゼミナールⅠ		授業形態 / 必修	演習	必修	
	学則別表上表記	共同演習Ⅰ	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 声優アーティスト/俳優アーティスト					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	福岡の演劇劇団に所属。俳優として20年間活動。東京、福岡などで現在も活動中。 舞台演劇・TVドラマ・TVCMに自ら出演の他、CMナレーションや民放番組ナレーションも担当。 俳優としての表現力と舞台経験を活かした講義内容となっている。					
授業概要						
①年間3本以上の戯曲台本を使用し、役の心情や行動原理を理解すると共に、観客の視線を意識した演技を習得していきます。 ②舞台制作における、板上での立ち居振る舞いや制作スタッフの動きなどを学び、様々な方面から舞台というものを習得していきます。						
到達目標						
・声優や俳優に必要な表現力を、身体を使用した演劇を通じ習得する。 ・台詞を読み上げ、身体を使って喜怒哀楽の感情を表現するために必要な技術を身につける。 ・演劇に必要な基礎としての発声・滑舌・姿勢・体幹を手に入れる。 ・脚本をしっかり読み取り、役の感情を的確に表現できる。 ・一舞台役者として、制作スタッフとの連携をもって舞台が制作、完成するということを理解して行動する。						
授業計画・内容						
【前期】 1～3回目	・演劇基礎ワークショップ ・エチュード(一本橋、押し売り 言葉限定等)					
【前期】 4～7回目	・脚本を使用した演技(起承転結で進行する、分かりやすい戯曲)					
【前期】 8～10回目	・脚本を使用した演技(起承転結で進行する、分かりやすい戯曲)					
【前期】 11～13回目	・脚本を使用した演技(芸術志向の強い、分かりにくい戯曲)					
【前期】 14～17回目	・脚本を使用した演技(芸術志向の強い、分かりにくい戯曲) ■前期試験:脚本演技					
【後期】 18～20回目	・脚本を使用した演技※進級公演候補作品を数作品					
【後期】 21～24回目	・進級公演に向けて※本読みと配役決め					
【後期】 25～27回目	・進級公演に向けて※立稽古、衣装決め					
【後期】 28～30回目	・進級公演に向けて※通し稽古、照明、PAとリハーサル					
【後期】 31～34回目	・進級公演に向けて ■後期試験:脚本演技					
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 / 台詞まわし / 姿勢・体幹 / 協調性 / 脚本解釈」の5項目の到達度を総合的に評価する。					
学生へのメッセージ	観客に想いを伝えるためには、発声、滑舌などの基礎を身につけ、文脈に沿った演技ができているかが大切です。 また演技の邪魔をしない、しなやかな身体としっかりした体幹が必要となります。 基本的なワークショップからひとつずつ丁寧に学び、総合的な演技力を習得していきましょう。					
備考	他都度用意した脚本を使用。					

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	身体感情表現Ⅰ		授業形態 / 必選	実習	選択	
	学則別表上表記	演技実習Ⅰ	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 声優アーティスト/俳優アーティスト					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	福岡の演劇劇団に所属。俳優として20年間活動。東京、福岡などで現在も活動中。舞台演劇・TVドラマ・TVCMに自ら出演の他、CMナレーションや民放番組ナレーションも担当。俳優としての表現力と舞台経験を活かした講義内容となっている。					
授業概要						
①シアターゲームやインプロワークショップを実施、都度フィードバックを行って感情表現力を高めていきます。 ②エチュードを行いながら、様々なシチュエーションでの適切な感情レベルを探っていきます。 ③喜怒哀楽を、身体・セリフの効果的な使い方と適切に伝えられるように表現していきます。						
到達目標						
・表現の下地となる豊かな感情・喜怒哀楽を、他人が見て理解できるレベルで表現、またその強弱をも表現できるような技術を習得する。 ・喜怒哀楽以外の心の中にある様々な感情を、外に向かって表現する方法・技術を習得する。 ・演劇・舞台などにおける基礎を身につけ、人前で表現する羞恥心をとりのぞいていく。						

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	・コミュニケーションワークショップ ・集中力を高める訓練
【前期】 4～7回目	・シアターゲーム(ウイंकキラー、子供・家・台風など)
【前期】 8～10回目	・滑舌訓練(レロレロ、ミャンマーゲームなど) ・言葉を使った感情表現
【前期】 11～13回目	・エチュードを中心に、表情を使った感情表現
【前期】 14～17回目	・エチュードを中心に、表情を使った感情表現② ■前期試験:喜怒哀楽エチュード・感情が、表情や身体表現で他人に適切に伝わっているかチェック
【後期】 18～20回目	・エネルギー放出 ・脚本演技 ※シアターゲームは引き続き実施
【後期】 21～24回目	・エネルギー放出2・ 脚本演技 ※様々な役を交代で演じていく
【後期】 25～27回目	・他人から見た自分を研究・脚本演技 ※一つの決まった役を演じていく
【後期】 28～30回目	・進級公演に向けて ※一つの作品を仕上げていく
【後期】 31～34回目	・進級公演に向けて ■後期試験:脚本演技・適切な感情レベルの表現がきちんとできているかチェック
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する実技試験により「平常点 / 感情表現 / 感情コントロール / エネルギー放出 / 自己理解」の5項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	演技に必要な要素のひとつに「リアリティ」があります。適切なシチュエーションには、適切な感情の表現レベルがあり、それがきちんと観客に伝わると「リアリティ」が生まれます。人の心を動かすためには、役者自身の心が動いていないといけません。そのために必要なレッスンは「身体感情表現」です。人に見せまいとしていた感情を外へ表現することができますようになります。頭で演じるのではなく、心で演じ、リアリティのある演技のできる役者を目指しましょう。
備考	都度用意した脚本を使用。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	音声技法Ⅰ		授業形態 / 必選	講義	選択	
	学則別表上表記	音声技法Ⅰ		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 声優アーティスト/俳優アーティスト					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	TVアニメ「恋姫†無双(主役・関羽役)」、TVアニメ「ななついろ★ドロップス pure!!(小岩井フローラ役)」TVCMナレーション「ヨドバシカメラ」他、外画吹き替え、ネットラジオ、アニメキャラクターソング、舞台出演、テレビ番組出演等、活動は多岐に渡る。芸歴26年。講師歴10年。声優としての活動経験を活かした講義内容となっている。					
授業概要						
①発声・発音の基礎を学び、自分の身に付けるための習慣化を図ります。 ②表現の基礎となる、言葉に対する知識の幅を拡げ実践に活かせるようにしていきます。						
到達目標						
・日本語共通語アクセントの実用的理解。 ・発声、発音の基礎を理解し習得するきっかけをつかみ、繰り返し取り組む姿勢を身に付ける。 ・一人一人の長所と短所を自らが知覚し理解していく。						

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	・発声、発音を学ぶ。・身体づくり・課題: 外郎売・共通語アクセントの学習・母音の無性化・鼻濁音
【前期】 4～7回目	・発声、発音を学ぶ。・身体づくり・課題: 外郎売・共通語アクセントの学習・母音の無性化・鼻濁音
【前期】 8～10回目	・発声、発音を学ぶ。・身体づくり・課題: 外郎売・共通語アクセントの学習・母音の無性化・鼻濁音
【前期】 11～13回目	・外郎売の暗唱・腹式呼吸・呼吸調節・発声基礎練習・調音練習 ・ライブウィーク発表
【前期】 14～17回目	夏休み明け確認(・腹式呼吸・呼吸調節・調音・母音・連母音・母音の無声化・鼻濁音(外郎売)・発声基礎練習) ■前期試験: 前期内容の理解度を含めた実技テスト
【後期】 18～20回目	・腹式呼吸・呼吸調節・調音母音の無声化・鼻濁音(外郎売)・発声基礎練習 ・個々の五十音の発声、発音チェック、課題徹底。
【後期】 21～24回目	・発声基礎練習・個々の五十音の発声、発音の課題徹底。・体力作り
【後期】 25～27回目	・発声基礎練習・体力作り・課題文章などを使った練習。
【後期】 28～30回目	・発声基礎練習・個人課題確認。
【後期】 31～34回目	・発声基礎練習・個人課題振り返り、2年へ向け春休み課題周知 ■後期試験: 全期通して理解力のチェックおよび作品読解を含む音読実技試験
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する実技試験により「平常点 / 発声・発音 / 呼吸調整 / 授業理解度 / 基礎訓練の取り組み方」の5項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	言葉で表現する人にとって、発声・発音の訓練はを欠かすことが出来ません。個々によりその方法は細かく違いますので、自分の体とメンタリティーと向き合い、プロの表現者として魅力のある言葉を話せる人を目指します。常に目的を持つことが大切です。基礎訓練が最も大切なので、一歩ずつ丁寧に取り組みましょう。
備考	・「日本語の発声レッスン」 ・「アクセント辞典」を使用。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	アフレコⅠ		授業形態 / 必選	演習	選択	
	学則別表上表記	表現パフォーマンスⅠ	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 声優アーティスト					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目					該当 ■ 非該当 □
担当講師 実務経歴	TVアニメ「恋姫†無双(主役・関羽役)」、TVアニメ「ななついろ★ドロップス pure!!(小岩井フローラ役)」TVCMナレーション「ヨドバシカメラ」他、外画吹き替え、ネットラジオ、アニメキャラクターソング、舞台出演、テレビ番組出演等、活動は多岐に渡る。芸歴26年。講師歴10年。声優としての活動経験を活かした講義内容となっている。					
授業概要						
・台本読解について深く学ぶ。 ・レコーディングスタジオでの音声収録を通して、マイクの使い方、スタジオでの立ち振る舞い方を身につける。 ・ラジオドラマ台本を使ったレッスン。 ・アニメのアフレコ・外画のアテレコのレッスン。						
到達目標						
スタジオマナーやマイクの使い方をマスターする。アニメや外画の実習を経て、声優の仕事により興味を持ち、研究をする。						

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	・オーディオドラマ・ヴォイスサンプルについての講義
【前期】 4～7回目	・オーディオドラマ(スタジオ実習含む)・ヴォイスサンプルについての講義
【前期】 8～10回目	・オーディオドラマ(スタジオ実習含む)・ヴォイスサンプルについての講義、収録実習
【前期】 11～13回目	・オーディオドラマ(スタジオ実習含む)・ヴォイスサンプル収録実習
【前期】 14～17回目	■前期試験 ・オーディオドラマ収録実習
【後期】 18～20回目	・アニメアフレコ実習
【後期】 21～24回目	・アニメアフレコ実習
【後期】 25～27回目	・アニメアフレコ実習 ・ヴォイスサンプル制作実習
【後期】 28～30回目	・ヴォイスサンプル(素材選定、練習) ■後期試験:ヴォイスサンプル収録(選定から収録まで全てにおいて採点)
【後期】 31～34回目	・アフレコ実習・オーディオドラマ
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する実技試験により「平常点 / 適切な状況判断/ 演技力 / 授業に取り組む姿勢 / スタジオワーク」の5項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	アフレコも、身体全体を使って演じます。その中でも台本のチェックの仕方、マイクの使い方、収録方法など、アフレコならではのことがたくさんあります。レコーディングスタジオで実際に収録してみることで、現場さながらのレッスンができます。ひとつずつ不安要素をなくしていきましょう。
備考	都度用意した原稿を使用。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	アクター基礎Ⅰ - 声優		授業形態 / 必選	講義	選択	
	学則別表上表記	アクター基礎Ⅰ	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 声優アーティスト					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	バラエティー番組のMCやラジオパーソナリティー、様々なイベントへの出演等、お笑い芸人として15年間活動。現在は、イベントMCを中心に活動しながらラジオ番組にも出演している。声優や俳優をゲストに招いたイベントにも多数出演しており、これらの経験を活かした講義を行う。					
授業概要						
トークの技術を磨きながら、役者として、トークイベントや、バラエティ番組に出演した際の表現方法を学ぶ。 また、ラジオ実習で、自分に合った表現方法を模索する。						
到達目標						
トークイベントや、トーク番組、ラジオ番組に出た際の自身に適した表現方法を模索し、外部に向けた話し方、自己表現の仕方を身に付ける。 演習とフィードバックを繰り返し行う事で、自身の理想の表現に近づける。 また、発声や声のトーン等、人前で話すために必要な要素を学び、自身の表現に活かす。						

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	トークをする際の心構え 自身の表現力の確認
【前期】 4～7回目	自己表現トレーニング① 発声やトーンを意識して話す
【前期】 8～10回目	自己表現トレーニング② 一対一でのテーマトーク ※撮影後フィードバック
【前期】 11～13回目	自己表現トレーニング③ 複数人でのテーマトーク ※撮影後フィードバック
【前期】 14～17回目	■前期試験:テーマトーク ※撮影後フィードバック
【後期】 18～20回目	・ラジオパーソナリティ実習(外部ラジオスタジオにおいて)・プレゼンテーション
【後期】 21～24回目	・ラジオパーソナリティ実習(外部ラジオスタジオにおいて)・プレゼンテーション
【後期】 25～27回目	・ラジオパーソナリティ実習(外部ラジオスタジオにおいて)・プレゼンテーション
【後期】 28～30回目	・ラジオパーソナリティ実習(外部ラジオスタジオにおいて)全10回放送予定。
【後期】 31～34回目	・ラジオパーソナリティ実習 ■後期試験
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する実技試験により「トーク技術/表現力/対応力/構成力/創造力」の5項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	現時点での自身の表現力をしっかり認識した上で、様々な事に取り組む必要があります。 撮影した映像をしっかりと確認することで、客観的に自身の表現と向き合ひましょう。それにより、それぞれが抱える課題が見えてきます。 理想の表現を実現させるために、実践&フィードバックを重ねて、より多くの気づきを掴みましょう。
備考	都度用意した原稿を使用

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	言語感情表現Ⅰ－声優		授業形態 / 必選	講義	選択		
	学則別表上表記	表現Ⅰ	年次	1年次			
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位	
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 声優アーティスト						
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目					該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	TVアニメ「ポケットモンスターBW」、外画「ザ・パシフィック」など出演作品多数。演技のジャンルに囚われず、テレビドラマや舞台、ナレーターなど2009年より声優として幅広く活動。現在は、ナレーター、ボイストレーナーを中心に活動中。声優としてだけでなく、様々な現場経験を活かした講義内容となっている。						
授業概要							
①感情のこもった声とはどういうものなのか、その感覚・技術を学んでいく。 ②「演じるというのは一体どういうことなのか」「心を動かす」ことを学んでいく。							
到達目標							
・言葉を使って喜怒哀楽の感情を表現するために必要な技術を身につける。							
・感情開放を通じて、自分の演技をホンモノにする。							
・自分の可不可を認め、恐れず向き合えるようになる。							
・自分自身をさらけ出す意思と覚悟の習得。							

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	・自己分析(羞恥心からの脱却) ・他者との同調、共鳴
【前期】 4～7回目	・スピーチ(主張、熱量、解放) ・感情の呼吸(笑い、泣き、怒り)
【前期】 8～10回目	・距離感、スケール、セルクル
【前期】 11～13回目	・基本的情緒(驚き、怒り、悲しみ、喜び、共感)
【前期】 14～17回目	■前期試験:課題台本
【後期】 18～20回目	・台詞(感情の変化、移行)
【後期】 21～24回目	・掛け合い台本(聴く、見る、伝える)
【後期】 25～27回目	・ナレーション、朗読表現
【後期】 28～30回目	・強みと弱点の把握
【後期】 31～34回目	・振り返り ■後期試験:課題台本
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点/表現力/対話/課題への取り組み/感情の向き合い方」の5項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	表現力とは「自分の考えや思いなどを相手に分かりやすく伝える力」の事です。イメージが出来ていたとしても伝える力を鍛えないとプロにはなれません。まずその第一歩として、不安・羞恥心・過剰なプライド・功名心・優越感・劣等感などでかんじがらめに縛られた心を自由に解き放ちましょう。自分自身に対して心を開き、フリではなく、本当に心を動かす演技と一緒に目指しましょう！
備考	都度用意した原稿を使用。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ヴォイストレーニングⅠ		授業形態 / 必選	実習	選択	
	学則別表上表記	歌唱/演奏基礎技術Ⅰ	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 声優アーティスト/俳優アーティスト					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	鍵盤弾き語り、シンガーソングライター。 The 8th Music Revolution Hi-Gain大会、V3新人オーディション20th、など、多数のオーディションでグランプリ、ファイナリストに選出される。 2016佐賀年気球世界選手権、TV CM、企業CM、短編映画、への楽曲提供なども行なっている。					
授業概要						
ヴォイストレーニングを通し、正しい発声の仕方、音域の拡張、共鳴のさせ方を学習していきます。 ウォーミングアップの方法・腹式呼吸の習得・表情筋の使い方・母音を正しく響かせる口の開け方など。 また、歌唱の基礎であるチェストヴォイス～ミックスヴォイス～ヘッドヴォイスの声区融合とリズム感も併せて学習します。						
到達目標						
・ストレッチ、筋力トレーニングにより、歌える体を作っていく。						
・様々なスケールを用い、主にチェストヴォイスを鍛えて地声強化。						
・ヘッドヴォイスを学ぶことで、響く声、共鳴を身に付ける。						
・様々な声色(チェストヴォイス、ミックスヴォイス、ヘッドヴォイス)を習得し、歌唱へ反映させていく。						
・相対音感トレーニングにより、音感を高めていきます。						

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	ウォーミングアップ編 ～発声に入る前の準備運動～ / ストレッチ・筋トレ・リップロール・ハミング
【前期】 4～7回目	地声、低音強化編 ～地声強化のための発声練習法の取得～ / 喉を開くということ、声帯の動き、体の使い方
【前期】 8～10回目	地声、低音強化編 ～地声強化のための発声練習法の取得～ / 喉を開くということ、声帯の動き、体の使い方、リズムトレーニング
【前期】 11～13回目	裏声、ミックスヴォイス強化編 ～裏声強化のための発声練習法の取得～ / 声の種類について、息のコントロール、後ろ側の響きと前側の響き
【前期】 14～17回目	反復練習 / 地声強化のための課題曲（発声に意識して歌唱してみる） ■過去前期試験例：筆記、発声の実技試験により「練習メニューの理解度、取得度」から到達点を確認する。
【後期】 18～20回目	喚声点攻略編 ～喚声点が見えにくくなるための発声練習法の取得～ / 声の種類について、共鳴移動、声のコントロール
【後期】 21～24回目	喚声点攻略編 ～喚声点が見えにくくなるための発声練習法の取得～ / 声の種類について、共鳴移動、声のコントロール
【後期】 25～27回目	反復練習 / 共鳴移動のための課題曲（音域の広い楽曲の選曲し歌唱の中で共鳴移動を実践する）
【後期】 28～30回目	応用練習 / 様々な声色のための課題曲（別の音域を複数人で歌うことで相対音感も養いつつ、美しいハーモニーに必要な声色で歌唱してみる）
【後期】 31～34回目	総合的反復練習 / 各自課題曲（発声に意識して歌唱してみる） ■過去後期試験例：各自指定された楽曲を歌唱。「総合的な完成度」から到達度、理解度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「音程の精度 / 共鳴 / 知識」の3項目の到達度、理解度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	発声とリズムは歌唱の基礎で最も重要な技術です。発声練習は自分の声質を把握し、より良くしていくために欠かせません。チェストヴォイス(地声)の音域はトレーニング次第で伸ばすことができます。高くて歌えないと思っていた楽曲でもトレーニング次第で歌える様になります。また、裏声や低音域をしっかり鍛えることで、歌唱の中で使える音色を多く習得することが可能です。自分の音域や癖をしっかり把握しトレーニングに励み、歌える楽曲の幅を広げましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	歌唱実習Ⅰ		授業形態 / 必選	実習	選択	
	学則別表上表記	歌唱/演奏応用技術Ⅰ	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 声優アーティスト/俳優アーティスト					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	R&B,POPSのソロアーティストとして九州、東京を拠点に活動。 ミニアルバム“Darkness into light”をリリースし様々なステージに立つ。 ヴォーカルディレクターとして楽曲提供や様々なアーティストのレコーディングに参加。 プロシンガー・アイドル・KPOP養成所などで講師を勤めている。					
授業概要						
バラードやアップテンポといったテーマに合わせて自分で選んだ曲を歌い、 自分が歌うだけでなく、他者の歌唱を聞いて、見て、【歌う】【聞く】【考える】のサイクルで授業が進んでいきます。 自ら選んだ楽曲を歌いこみながらテクニックをきめ細やかに、また感情表現をより深めながらシンガーとしての自らをワークショップスタイルの中で確立して いきます。						
到達目標						
自ら選曲した一つの楽曲の中で、音程、リズム、などの観点から『基礎的な技術』を、ダイナミクス、魅せ方(パフォーマンス)などの観点からは『技術的な表現力』の取得をしています。そこに、同じ楽曲を数週間歌い続けていく中で考察し、深めた、その楽曲への自分的解釈を足すことで『自分の歌』にできるシンガーを目指します。 また、自分の歌唱を客観視できるようになるため、他者の歌を分析することで、聞く力、気づききっかけを養っていきます。 ここで得た'歌唱力'を用いて「人に届く歌」が歌えるようになること、それが「オーディションで結果を出す」「ライブでお客様に楽しんでもらう」と繋がるようにサポートしていきます。						

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	【自由曲①(得意ジャンル)】持ち味、武器となる部分を見つけていきます。
【前期】 4～7回目	【自由曲②(苦手ジャンル)】苦手な分野にトライし、苦手克服を目指します。
【前期】 8～10回目	【自由曲③(ジャンルレス)】ジャンルに囚われず、今、自分にとって必要な要素を取得することを目的として選曲していきます。
【前期】 11～13回目	【自由曲④(完全自由曲)】ジャンルに囚われず、自分の魅力を生かすことができる曲を選びます。
【前期】 14～17回目	【自由曲(アドバイスの必要な楽曲)】テストに向けた候補曲や、LIVE WEEKでの歌唱曲など、今アドバイスが欲しい楽曲を選曲します。 ■過去前期試験例:(ジャンルのみを指定)課題曲の歌唱により「音程/リズム/歌詞(滑舌や表現)/表現力」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	【自由曲⑤(洋楽)】言語の壁はもちろんのこと、リズムや表現方法などが全く日本の楽曲と異なります。どんなジャンルでも歌えるシンガーになるために様々な楽曲への歌唱のアプローチ法を考察します。
【後期】 21～24回目	【自由曲⑥(洋楽)】言語の壁はもちろんのこと、リズムや表現方法などが全く日本の楽曲と異なります。どんなジャンルでも歌えるシンガーになるために様々な楽曲への歌唱のアプローチ法を考察します。
【後期】 25～27回目	【自由曲⑦(完全自由曲)】ジャンルに囚われず、自分の魅力を生かすことができる曲を選びます。曲選びも重要です。
【後期】 28～30回目	【自由曲⑧(完全自由曲)】一年間の集大成となるような難易度の曲を選曲します。憧れていたけど歌ってこなかった曲、自分にとって少し難易度の高い曲を選ぶことで現在地を確認する。
【後期】 31～34回目	【自由曲①～⑧より選択】これまで歌い込んできた曲をもう一度歌うことで、前期の自身と比べることができ、より深く自身の歌唱力と向き合っていきます。 ■過去後期試験例:自由曲の歌唱により「音程/リズム/歌詞(滑舌や表現)/表現力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「音程/リズム/歌詞(滑舌や表現)/表現力」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	歌うことを職業にしていくなめには、技術は絶対に必要になってきます。この技術を取得し続けるためには、自分で課題を見つけ、自分で課題を解決していく力を身につける必要があります。その一連の流れが一人で行えるようになるための練習をこの授業の中で学んでいきます。 まずは気づくこと。知ること。そこから始めていきましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ダンスベーシック&アイソレーションⅠ		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	アイソレーションⅠ			
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 声優アーティスト/俳優アーティスト				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	ダンスチーム Mool(モール)に所属。福岡を拠点に AKB48、KAZU(BROWN SUGAR)、比花知春、Alice、fumika 等のバックアップダンサーをつとめる。2005年よりダンスをはじめ、2014年よりインストラクター、今日に至る。				
授業概要					
①ダンスに必要な柔軟性・基礎体力を強化しながら、リズム感を養っていきます。 ②基本的なステップと動きを反復練習します。					
到達目標					
・進級公演や舞台脚本内でのダンス表現技術を習得する。 ・ストレッチ、筋力を強化するとともに、ダンスの基本ステップ、バランス、アイソレーションを習得、身体の使い方・リズム感を養う。 ・舞台、ミュージカルやライブステージで踊れるよう、ターンや基本ステップのコンビネーションを用いて、自己表現をする。					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	・ストレッチ・アイソレーション・リズムトレーニング ・筋力強化・体力強化
【前期】 4～7回目	・ストレッチ・アイソレーション・リズムトレーニング ・筋力強化・基本ステップ
【前期】 8～10回目	・HIPHOP基礎を中心に ・アイソレーション、基本ステップ
【前期】 11～13回目	・HIPHOP基礎を中心に ・基本ステップを含んだ振り付けを覚える
【前期】 14～17回目	・基本ステップを含んだ振り付けを覚える② ■前期試験: アイソレーションや基礎ステップの2分ほどの振り付けを覚え発表する
【後期】 18～20回目	・JAZZ基礎 ミュージカル等で必要なJAZZの要素を習得する
【後期】 21～24回目	・HIPHOP応用 ・JAZZ応用
【後期】 25～27回目	・舞台発表に向けて※ダンスの振り入れ
【後期】 28～30回目	・振り付けに加えて、自己表現やフォーメーションレッスン
【後期】 31～34回目	・フォーメーションレッスン ■後期試験: 応用ステップを含んだ3分ほどの振り付けを覚え、自己表現を交え発表する
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点/アイソレーション/リズム感/基本ステップ/自己表現」の5項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	1年生では基本となるアイソレーションを中心にステップを覚えていきます。 舞台やミュージカル、ライブステージなど様々な分野で必要となるリズム感や身体を使っでの表現力を磨いていきましょう。 そのためにも、身体能力の向上を目指して日々トレーニングしていきましょう。
備考	様々な楽曲の音源を使用。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ライブスタイル実習Ⅰ		授業形態 / 必選	演習	選択	
	学則別表上表記	アンサンブル基礎Ⅰ		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 声優アーティスト/俳優アーティスト					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	鍵盤弾き語り、シンガーソングライター。 The 8th Music Revolution Hi-Gain大会、V3新人オーディション20th、など、多数のオーディションでグランプリ、ファイナリストに選出される。 2016佐賀年気球世界選手権、TV CM、企業CM、短編映画、への楽曲提供なども行なっている。					
授業概要						
課題曲に内包されているテクニック、リズム、ハーモニーなどの類例を自らの経験値として取り込みながらバンドアンサンブルについて理解を深める。 3週で楽曲が変更。ライブイベントへ向けてのリハーサルも兼ね、パフォーマンス力、ステージング力の向上をもちあがっていく。						
到達目標						
・ボーカルだけでなく各楽器(Gt. Ba. Dr.)とのアンサンブルを学ぶ。						
・曲の理解、バンド内のコミュニケーション、ボーカル以外の音の聴き方、リズムの取り方など						
・楽器の音、バンドアンサンブルにおける自分の音をしっかりと聞き分け、音楽の楽しみ方を学び、						
・バンドとして一つの音を奏で、パフォーマンスも含めアンサンブルにつなげる。						

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	1曲目：仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。
【前期】 4～7回目	2曲目：仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。
【前期】 8～10回目	3曲目：仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。 過去3曲の中からLIVE WEEKに向けてチーム決定。
【前期】 11～13回目	LIVE WEEKに向けてパフォーマンスやクオリティを上げるためのリハーサル週間
【前期】 14～17回目	バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。 ■前期試験：課題曲の歌唱により「音程 / リズム / パフォーマンス / コミュニケーション力」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	1曲目：仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。
【後期】 21～24回目	2曲目：仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。
【後期】 25～27回目	3曲目：仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。 過去3曲の中からLIVE WEEKに向けてチーム決定。
【後期】 28～30回目	バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。
【後期】 31～34回目	LIVE WEEKに向けてパフォーマンスやクオリティを上げるためのリハーサル週間 ■後期試験：課題曲の歌唱により「音程 / リズム / パフォーマンス / コミュニケーション力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「音程 / リズム / パフォーマンス / コミュニケーション力」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	アンサンブルは音楽活動をするうえで避けては通れない技術になります。楽曲の理解、バンド内コミュニケーション、全体のサウンドにおける自分の歌の位置づけを知ることは歌のクオリティを上げるために非常に重要なことです。ボーカル以外の楽器の音を聴き分けることもアンサンブルを上達させるために必要になります。この授業を通して、楽曲の聴き方、音楽のより深い楽しみ方を学び、人と人とが奏でる音楽・アンサンブルに繋がっていきます。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ライブパフォーマンス実習Ⅰ		授業形態 / 必選	演習	選択
	学則別表上表記	アンサンブル応用Ⅰ		年次	1年次
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 声優アーティスト/俳優アーティスト				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	鍵盤弾き語り、シンガーソングライター。 The 8th Music Revolution Hi-Gain大会、V3新人オーディション20th、など、多数のオーディションでグランプリ、ファイナリストに選出される。 2016佐賀年気球世界選手権、TV CM、企業CM、短編映画、への楽曲提供なども行なっている。				
授業概要					
課題曲に内包されているテクニック、リズム、ハーモニーなどの類例を自らの経験値として取り込みながらバンドアンサンブルについて理解を深める。 3週で楽曲が変更。ライブイベントへ向けてのリハーサルも兼ね、パフォーマンス力、ステージング力の向上をもはかっていく。 ※アンサンブル基礎Ⅰの二コマ目として実施					
到達目標					
・ボーカルだけでなく各楽器(Gt. Ba. Dr.)とのアンサンブルを学ぶ。					
・曲の理解、バンド内のコミュニケーション、ボーカル以外の音の聴き方、リズムの取り方など					
・楽器の音、バンドアンサンブルにおける自分の音をしっかりと聞き分け、音楽の楽しみ方を学び、					
・バンドとして一つの音を奏で、パフォーマンスも含めアンサンブルにつなげる。					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	1曲目：仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。
【前期】 4～7回目	2曲目：仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。
【前期】 8～10回目	3曲目：仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。 過去3曲の中からLIVE WEEKに向けてチーム決定。
【前期】 11～13回目	LIVE WEEKに向けてパフォーマンスやクオリティを上げるためのリハーサル週間
【前期】 14～17回目	バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。 ■前期試験：課題曲の歌唱により「音程 / リズム / パフォーマンス / コミュニケーション力」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	1曲目：仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。
【後期】 21～24回目	2曲目：仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。
【後期】 25～27回目	3曲目：仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。 過去3曲の中からLIVE WEEKに向けてチーム決定。
【後期】 28～30回目	バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。
【後期】 31～34回目	LIVE WEEKに向けてパフォーマンスやクオリティを上げるためのリハーサル週間 ■後期試験：課題曲の歌唱により「音程 / リズム / パフォーマンス / コミュニケーション力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「音程 / リズム / パフォーマンス / コミュニケーション力」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	アンサンブルは音楽活動をするうえで避けては通れない技術になります。楽曲の理解、バンド内コミュニケーション、全体のサウンドにおける自分の歌の位置づけを知ることは歌のクオリティを上げるために非常に重要なことです。ボーカル以外の楽器の音を聴き分けることもアンサンブルを上達させるために必要になります。この授業を通して、楽曲の聴き方、音楽のより深い楽しみ方を学び、人と人とが奏でる音楽・アンサンブルに繋がっていきます。
備考	